

第 66 回岩手県総合計画審議会

(開催日時) 平成 25 年 11 月 25 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30

(開催場所) エスポワールいわて「大ホール」

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 提言書 (案) の構成及び共通部分について
- 4 各検討部会の提言書 (案) について
 - (1) 「人口」検討部会分提言書 (案) について
 - (2) 「ゆたかさ」検討部会分提言書 (案) について
- 5 提言書 (案) にかかる意見交換
- 6 その他
- 7 閉 会

委員

藤井克己会長、佐々木裕彦副会長、浅沼道成委員、鎌田仁委員、菊田悌一委員
谷藤邦基委員、千田ゆきえ委員、中村富美子委員、早野由紀子委員
柂屋伸夫委員、森奥信孝委員、山口淑子委員、山田佳奈委員、吉田基委員
米澤慎悦委員

1 開 会

○司会 (大平政策地域部副部長) それでは、大変お待たせいたしました。ただいまから第 66 回岩手県総合計画審議会を開催いたします。私、事務局を担当しております県の政策地域部政策推進室の大平でございます。暫時進行を務めさせていただきますので、よろしくをお願いします。

本日は、お手元にお配りしております名簿では、鹿野委員、川又委員、工藤委員、高橋委員の 4 名の方がご欠席となっておりますが、菅原委員からもご欠席の連絡をいただいております。中村委員はまだでございますが、間もなくいらっしゃると思われれます。

委員 20 名中、現在のところ 14 名の方のご出席となっており、過半数を超えておりますので、岩手県総合計画審議会条例の規定によりまして、会議が成立しておりますことをまずもってご報告いたします。

次に、配付資料について確認いたします。本日は、お手元に次第、名簿等をお配りしております。それに加えまして、先日事前にお送りしておりますのが資料 No. 1 の「提言書 (案)」、資料 No. 2 の「人口」検討部会分提言書 (案)」、資料 No. 3 の「ゆたかさ」検討部会分提言書 (案)」、資料 No. 4 の「平成 25 年度の総合計画審議会の運営スケジュール」

です。

さらに、本日、10月31日に行いました藻谷浩介様の講演の資料もお配りしております。事前配付資料等をお持ちでない委員の方がいらっしゃいましたら、お申し出いただければお届けいたします。資料はよろしいでしょうか。

2 あいさつ

○司会（大平政策地域部副部長） それでは、開会に当たりまして中村政策地域部長よりご挨拶申し上げます。

○事務局（中村政策地域部長） 委員の皆様にはお忙しい中、ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。昨年度から当審議会に「人口」と「ゆたかさ」の2つの検討部会を設置をさせていただいております、委員の皆様にもいろいろご検討していただきました。

県では、最大の課題でございます大震災津波からの復旧、復興、これは当然のことでございますけれども、その後の岩手も見据えて、いろいろな取り組みを現在行っております。具体的には、ILCの具体化に向けた推進でありますとか、いわて国体の開催を控えた諸準備、それから平泉をはじめとした世界遺産関連の取り組み、日本ジオパークに認定されました三陸ジオパーク、これにつきましてもその具体化を現在市町村と一緒に進めている状況でございます。

ただ、ご案内のとおり、岩手だけではございませんけれども、人口減少社会に突入し、少子高齢化が進展していること、グローバル化が進展していることなど、この岩手を取り巻く状況も大きく変わりつつございます。そういった中で、これからの岩手の進むべき方向といたしますか、そういったことを委員の皆様にも具体的にご検討いただくということで、この2つの検討部会を設置させていただいて、ご検討いただいているということでございます。

本日は、これまでご検討いただいたことにつきまして、提言案ということで整理させていただいてございますので、両検討部会の座長さんからその概要をご説明いただきながら、また委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思います。

いろいろ難しい課題はいっぱいございますけれども、この岩手を持続可能な社会として、これからもしっかり守っていかなければならないということが我々に課せられている大きな責務であると思っております。今の第2期アクションプランが来年度で終了となりますので、そのポスト第2期アクションプランに向けての検討作業も、今後、スタートすることになります。そういったことを踏まえまして、ぜひ「人口」検討部会、「ゆたかさ」検討部会には、多面的なご意見、ご提言をいただければと考えてございます。本日はよろしく願いいたします。

3 提言書（案）の構成及び共通部分について

○司会（大平政策地域部副部長） ありがとうございます。それでは、ここからの会議運営につきましては、条例の規定により会長が議長となりますので、藤井会長、よろしくお願ひいたします。

○藤井克己会長 それでは、ここから会議次第により進行してまいりたいと思います。座ったままで失礼いたします。

それでは、お手元の資料でいきますと、提言書（案）の構成及び共通部分について、事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○事務局（菊池政策監） 事務局の政策監をやっております菊池でございます。本日はどうもありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、早速説明に入らせていただきます。まず、資料構成ですが、資料 No. 1 をお開きいただきたいと思ひます。これが目次でございますが、目次の右端に記載しておりますとおり3部構成とさせていただきます。「はじめに」から3までが、これまでご議論していただきました両検討部会の中で共通の現状認識や問題点等について整理した部分でございます。

4からが2つに分かれておまして、4が2つあるという捉え方をさせていただければいいのですが、「人口」検討部会様からの提言骨子と「ゆたかさ」検討部会様からの提言骨子、それぞれをいわば並列で整理しております。これがそれぞれ「人口」検討部会がいわゆる2部で、「ゆたかさ」検討部会が3部ということで、全体で3部構成ということになります。

これまでの経過を振り返ってみますと人口減少社会の進行という前提の中で、「人口」に関する取り組みと「ゆたかさ」に関する取り組みの多くの部分がオーバーラップするのではないかという議論もありまして、9月に試案として、両検討部会共通の提言書（案）をご提示したところでございますが、両検討部会、特に「人口」検討部会様の方で、やはりそれぞれのテーマ、目的があつてできた部会であることを鑑みれば、それぞれの検討部会から提言をするべきではないかというご議論もありまして、それをお受けした形で今の構成になっております。最終的にまとめるまでの間に、いろいろご議論いただきたいと思ひますが、現段階では9月のご議論を尊重いたしまして、それぞれの検討部会の提言案骨子という形に整理させていただいております。

振り返りついでに少し申し上げさせていただければ、これまでのご議論は、どちらかといいますと現状に対するいろいろな問題点がありまして、委員さん方でいろいろな問題点を共有していただいて、それに対する対応というような形の議論が中心だったと思ひます。

やはり先ほど部長も申し上げましたとおり、震災復興の先にある未来の岩手といひますか、そういったものを見据えての提言ということも考え合わせますと、今後提言をまとめていくに当たっては、今後、10年先以降を見通した将来の岩手について、例えば社会シス

テムとしてこういったシステムになっていくのが必要なのだ、あるいは経済、雇用ではこういうシステムになるべきだというような形にさらにご議論をまとめていただくようなことになると思っております。

本日は、先ほど藤井会長からお話しいただきましたように、私の説明の後は両検討部長さんから検討状況や提言骨子の2部、3部のところをお話しいただき、それを受けた上で、また自由なご議論を交わしていただければと思っております。

これから皆様のご意見をいただいて最終的にまとめていく作業について、今後のスケジュールをあらかじめご説明したいと思いますので、資料No. 4を見ていただきますと、今年度は、6月から検討部会等の展開がありまして、本日は、中段ちょっと下の総合計画審議会をやっております。その後、最終的には一番下、2月13日の第67回岩手県総合計画審議会を用意させていただいております。ここで両検討部会の提言をまとめた上で、総合計画審議会本体として知事に提言書を提出いただくという段取りになっておりまして、その間、本日から2月の間にいろいろまた作業をしなければならないというスケジュール感を共有させていただきたいと思っております。

大変申し訳ないのですが、今申し上げましたような視点で、今後さらに提言内容をご検討いただき、12月下旬から1月中旬までの間にもう一度検討部会を開催していただきまして、最終的な提言案を取りまとめたいと考えております。その前の、本日から次の1月の検討部会までの間、提言のブラッシュアップの作業等をしていきたいと思っております。その作業を進める中でまた各先生方に時期を見て意見照会なりさせていただくことになると思いますが、どうかよろしくお願ひしたいと思っております。

次は、資料の説明ですが、この資料の特に共通部分のつくり、中身につきましてはこれまでの検討部会でも何度もお目に触れていただいておりますし、十分ご了解いただいていると思っておりますので、簡単にお話しいたします。

まず、1ページですが、これは「はじめに」でございまして、検討部会の性格と狙い等について整理させていただいております。

次に、2ページ目ですが、2ページ目は現状分析として、いわゆる人口推計、推移と社人研の将来推計人口を記載しております。

次に、3ページですが、人口減少の原因と背景について記載させていただいております。

次に、4ページですが、出産年齢人口が減少していることと、出生率そのものが低下していることが出生数が減少していることの原因であることを記載しております。社会減につきましては、これまでもご説明したとおりですが、我が国の経済状況と呼応した形で推移しているということが分かるかと思っております。

5ページ目ですが、年齢別の社会増減を記載させていただいております、特に若年層の社会減が多いということが分かるかと思っております。

次に、県民所得の推移ですが、2010年度の本県の1人当たりの県民所得は223万4千円とございまして、国民の1人当たりの国民所得272万9千円と比較し約8割となっております。

ます。グラフでお示ししているとおり、1980年以降、一人当たり県民所得が国民所得に対して約8割程度の状況が続いております。

また、次に7ページであります。本県の多様な「ゆたかさ」を知るといいますか、考えていく上で参考となりそうな資料を自然、食料、住居、家族、子育て等々の観点から評価して整理しております。

8ページでございます。8ページは、本県を取り巻く社会経済情勢につきまして、一般的に言われていることですが、改めて念のため、こういう環境にあるということを書きで整理させていただいておりますし、人口減少の状況というのはおおむね現状どおり、予測どおりに推移するのではないかとおぼえておりますが、その人口減少社会の進行の中で懸念される事項について、主なものを評価して整理させていただいております。

長くなりましたが、以上が共通部分に対する説明でございます。よろしくお願いいたします。

○藤井克己会長 ただいま菊池政策監から資料 No. 1 の当審議会からの提言書の両検討部会の共通部分である「はじめに」と「現状分析」、それから「主な社会経済状況の変化の動向」という8ページまでについて簡単に紹介してもらいました。

それから、ここまでの運営スケジュール、今年度の予定が資料 No. 4 でございます。考えますと、今年度、この審議会が第1回でございまして、何となく2回目のような気がしていたのですが、実は昨年度末、今年の2月15日に開催して以来でございます。先の65回が実は2月でございました。昨年度、今年度のこの第17期審議会ですが、今6つ政策目標がある中で特に「人口」と「ゆたかさ」に関するテーマというのは、他にも共通するものであろうから、2つに絞り込んで検討を進めましょうということで、昨年度来進めております。

今年度、資料 No. 4 にありますように、「ゆたかさ」、「人口」それぞれの検討部会を6月、8月、9月末という形で、それぞれ独立して検討を進めてまいりました。私は「ゆたかさ」検討部会に入っておりますので、「人口」検討部会の方はもう1年ぶりぐらいにお見かけしません。

今お話ありましたように、9月のそれぞれの第5回の検討部会、ここにおいてそれぞれ提言を検討する中で、すり合わせという場でもあったのですけれども、やはりこれまで検討を進めた経緯もあって、両検討部会の提言を今回ご紹介いただくところとなっております。

今、菊池政策監から今後の進め方も含めて説明がありましたが、今日の議事進行等につきまして何かご意見おありでしょうか。よろしいでしょうか。これまでの両検討部会での検討の経緯と、本日の提言書の共通部分、それからそれぞれの検討部会の提言がその後続きますというご紹介でした。

4 各検討部会の提言書（案）について

(1) 「人口」検討部会分提言書（案）について

(2) 「ゆたかさ」検討部会分提言書（案）について

○藤井克己会長 それでは、説明に対しましてご意見ございませんでしたが、続きまして各検討部会の提言書（案）について、これまでの検討部会における検討状況及び各検討部会分の提言書（案）について、まずは「人口」検討部会の浅沼座長、引き続き「ゆたかさ」検討部会の山田座長からそれぞれご説明いただきたいと思います。質疑応答は両検討部会の説明を終了してからまとめて行いたいと思いますので、まずは報告をいただきたいと思います。

それでは、まず浅沼座長から「人口」検討部会をよろしく願いいたします。

○浅沼道成委員 では、座ったままで。「人口」検討部会ということで担当させていただきました浅沼です。ここにスケジュールがございますように、今、「ゆたかさ」検討部会含めてそれぞれが3回、一応こういう形で検討部会を開いてまいりました。

それから、地元の企業等の視察や、あるいは長野県の下條村の視察を踏まえながら検討を重ねてまいりました。

先ほど事務局からもお話ありましたように、時間が足りなかったというのが本音です。というのは、「ゆたかさ」よりは「人口」の方が具体的なところがあり、自然減と社会減をどう抑えていくかというテーマで、ある程度明確な部分はあるのですが、それでもテーマ自体がかなり大きいといえますか、漠然といえますか、非常に捉えどころがない。そういう中でいろいろな議論をしてまいりました。

資料を見ていただきますと、資料No. 2に「人口」検討部会の提言書（案）がありますが、いろいろな議論がありましたが、やはり最終的に目指す姿を示そうということで、「ゆたかな自然や歴史・文化、人間性などの魅力にあふれ、人々がいきいきと働くことができ、子どもをみんなで大事に育てていくことができる「希望にあふれるいわて」という目指す姿を9ページの真ん中に入れました。これを目指す最終的な姿として出し、それに向けてどう進めていくかという流れをつくろうということでした。

その流れ、目指す姿に向かってということで、大きく3つの柱で構成をしております。1番目の柱としては、9ページ目の(1)に出てきますが、「誰もが住みたくなる地域づくり」ということです。それから、2番目が12ページの「働く場を確保する」というところです。それから、3番目の柱は、15ページ目の(3)、「安心して暮らし、みんなで子どもを育てる地域をつくる」というところです。この3つの柱を立てました。もともとは、2番目と3番目が先行しておりました。委員はそれぞれ現場を持ってしまして、その現場で抱えているたくさんの課題が出てまいりましたので、そういう意味では2番目、3番目の柱の中で具体的に提案している内容というのは、ある意味では深く精査するというよりは、それぞれが抱えている課題をまず出していただき、それを事務局とうまくまとめたという

ところになっております。

その中で、部会長である私も大分こだわったのですが、1番目の「誰もが住みたくなる地域づくり」、要するに「希望郷いわて」といいますが、やっぱり岩手というところの魅力があってこそ人は定住するだとか、あるいは若者層の減少が特に目立つので、Uターン、Iターン、Jターンといった、若い層を戻すところを何とかしなければならない。当然こういう問題は、子育ての部分、それから企業、要するに働く場の部分ともかなり関連しているのですが、そのところのベースとしてこれを1番目に掲げました。とにかく魅力ある地域づくりというものを念頭に置いて、それをベースにしながらか2番目、3番目の現実的な働く場と子育ての場を整えていくということです。

ここにはまだ具体的に出てこないのですが、やっぱりそういったものが実際に進めていける仕組みをつくっていくための頭出しということで(1)の「住みたくなる地域づくり」というのがあります。そこには、9ページ目の下にアとしてあります「魅力ある地域づくり」とか、それから10ページ目のイにあります「若年層人口の地元定着」というようなところなど、かなり多くの網羅した内容がございます。スポーツもあったり、あるいはアニメコミッションといったようなアニメのもの、あるいはツーリズム、あるいは自然とかと、かなり多くのものが網羅されている感じでありますので、この辺は最終的な提言に向けて少し絞らなければいけないとは思っておりますが、今回はできるだけ皆さんに見ていただくと思って、こんな話が出たということになっております。それが1番目です。ですから、これをベースにしたいのですが、ここの部分の具体的な仕組みがまだ見えていないので、この辺はもう少し議論すべきと思っております。

12ページに参りまして、2番目のところの「働く場を確保する」ですが、ここは大きく3つのテーマといいますか、方向でまとめました。1番目は地元の企業を元気にするための取組みをすべきだということです。それから、2番目には企業の誘致、これは今までの誘致を超えた、もう少し具体的な、本当に定着していただける、すぐに撤退するのではないというような誘致を進めるということです。それから、3番目に、起業をする人たちを育てるとということです。企業の方々もたくさん入っている検討部会ですし、行政からも入っていただいていたので、ここはかなり具体的な話がどんどん飛び出しておりました。先ほど言いましたように、できるだけそれら皆さん方のご意見を網羅的に入れております。

それから、3番目は15ページの「安心して暮らし、みんなで子どもを育てる地域」ということで子供を産みやすい環境、それから福祉、医療を受けられる環境、それから子育てしやすい環境をつくっていくという、このような内容でまとめました。

これまで、検討部会が開かれた後にその場でもいろいろなご意見もありましたし、時間がないと言いましたのは、たくさん思いがあるものですから、検討部会後にメールで多くのご意見もいただきました。ですから、できるだけ皆さん方のご意見を入れるという意味で、今回の提言書(案)を今日ここでもんでいただいてまた意見をいただいて、先ほどお話しがありましたようにもう一度検討部会を開かせていただいて、最終的なものを詰めて

いきたいと考えております。

今日は特に、もう少し目玉になるような政策や内容について話題提供というか、皆さんにご意見いただきたいと思っております。個々のところは、様々な地域あるいは様々なところでいろいろな話や話題が出ている内容を網羅しておりますので、ある意味では当然といえば当然というようなご意見もいただいております。岩手らしい、今回のこの「人口」検討部会からの提言の中に少し目玉的な内容は盛り込みたいと、今日はそういったことのご意見いただければ、さらにまとめられるかと思っております。

以上です。

○藤井克己会長 ありがとうございます。それでは、続きまして山田座長から「ゆたかさ」検討部会の分の提案書（案）について説明をお願いいたします。

○山田佳奈委員 「ゆたかさ」検討部会の座長を務めさせていただいております山田と申します。本日はよろしく願いいたします。

「ゆたかさ」検討部会ということで、今浅沼委員さんからもお話しいただきましたように、ある意味哲学的といいましょうか、思想的といいましょうか、そのような課題を頂戴していた部会かなと考えております。そうした意味では、ご協力いただきました、ご尽力いただきました委員の皆様、事務局の皆様には本当に感謝申し上げる次第です。

この「ゆたかさ」検討部会の基本的なミッションにつきましては、資料No. 1の1ページの「はじめに」のところでまとめていただいております。

下から2段落目になりますが「ゆたかさ」検討部会では2つの大きなミッションがあったと理解しております。①として、第2期アクションプランとの関係で、県民所得の水準の国との乖離を埋めていくと、つまりここでは経済的豊かさというところについて、より進めていきたいというところが1点です。2番目として書いていただいておりますのが、経済的指標だけではあわせない「ゆたかさ」をどう捉えるかという、非常に大きな課題でございます。「ゆたかさ」をどう捉え、どう共有し、そしてそれをどのようにさらに大きくしていくかといったところですから、非常に多岐にわたった議論になりました。

また、私としまして、委員の皆様にはできるだけ自由なご発想でお考えいただきたいと思っております。これはおそらく委員の皆様にも共有されていたことかと存じます。

それでは資料No. 3に戻っていただいでよろしいでしょうか。18ページです。「人口」検討部会さんと同じく、検討部会に合わせまして、何度か現地視察を行い、それから後でも少し触れさせていただくかと思えますけれども、何度かご講演を頂戴し、いろいろな方向から考え方を様々にリフレッシュさせていくといったこともさせていただいております。

それで、私ども「ゆたかさ」検討部会としましての4番をごらんください。目指す姿としまして、真ん中に箱でくくっていただいておりますけれども、「お互いを認め合い、支えあう地域において、県民一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、それぞれの希望が実現でき

る、多様な「ゆたかさ」あふれる持続可能な岩手」、この一文の中に委員の皆様のお考え、思いやらが連なっているということは申すまでもありません。

検討の過程において委員の皆様から出していただきました、本当にきら星のごとくというのでしょうか、そうしたお考え、アイデアも含めまして、あるいは問題に対するご提言という形も含めまして、それを集約した形としての一文と見ていただければよろしいかと思えます。

その上で、こちらの検討部会におきましても、3本の柱、軸ということでまとめさせていただきます。まず、(1)をごらんください。同じページの下でございませぬ。まず、「強くしなやかな地域経済システムをつくる」、これは先ほど申し上げました①の、1つ目の経済的な豊かさというところに深くかかわるものと考えます。これらを見ていただくとお分かりかと存じますけれども、「人口」検討部会さんとかなり重なる部分がございます。

少しめくっていただきますとお分かりいただけますけれども、強く、かつしなやかな、様々な状況の変化に対応した中でできるような地域経済システムを今後どうやってつくっていくかという観点でまとめられております。

19 ページでございませぬけれども、アとしては「付加価値を高める」でございませぬ。一つ一つ読み上げる時間がございませぬので、お目通しいただきたいと思えますけれども、やはりブランド力を高めていく、あるいは多品種少量生産、また岩手の豊富な地域資源を生かすという方向が出されています。また、20 ページのgでも言っておりますけれども、起業を支援するといったことなど様々なご意見をいただいております。

少し戻りますけれども、最先端分野というところ、技術を生かすということも出されております。

ページをめくっていただきまして、21 ページですけれども、こうした産業そのものと同時に、どのような働き方というのがこれからあり得るか、あるいはどのような方のための就労支援が進められるのが望ましいかといったことで、a、b、c、dと、若者、女性、高齢者の方、U・I・Jターンの皆さんを岩手にどのようにして呼びよせるか、あるいはそうした方々をどのように支援するのかといった点につきましてもご意見をいただいております。

また、eでは、働き方そのものをもう一回見つめ直すということを出しております。

ウにつきましても、これも「人口」検討部会と重なるところですが、戦略的に企業誘致を進めていくというご意見をいただいております。もちろん企業支援というものもそうですが、戦略的に誘致企業を進めていくということです。

また、地域の再生可能エネルギー、再生可能な資源を活用した地域づくりにも改めて目を向けていくといったことが提言書(案)に盛り込まれております。

次の軸としまして、(2)をごらんください。22 ページです。「お互いを認め合い、支えあう地域をつくる」ということで、ここも「人口」検討部会さんと大いに重なるところで、す。「ゆたかさ」を実感するに当たっては、暮らし、生活の足元というような安心感が必要

で、もし不安感があるとすると、やはりなかなか「ゆたかさ」も実感できないといったことがあろうかと存じます。その意味で、医療、福祉といった、いかに健康に過ごせるかといったことや、あるいはページをめくっていただきまして、イとして「日本一子育てしやすい岩手」というのが今後の地域の活力を支えていくには必要ではないかということが「ゆたかさ」検討部会の提言書（案）にも盛り込まれております。

また、ウとしては、多様な主体の皆様の地域づくりへの参加をより促していきたいといったところです。

また、エとしましては、コンパクトシティに代表されますような、そもそもの考え方として、まちづくりの考え方を見直していくといったところです。また、これはインフラ整備というところでのつながりになります。

そして、第3の軸がその下の（3）の「多様な「ゆたかさ」を高め、次世代につなぐ」というところで、ページをめくっていただきますけれども、経済的な指標では捉えきれない自然の豊かさ、自然の保全ですとか、あるいは伝統文化を次世代にどのように継承していくかということや、あるいは26ページになりますけれども、地域づくり、人づくりも関わる仕組みづくりでございます。

エについては、若者、女性の感性を生かしていくということです。

そして、最後のページになりますけれども、27ページにつきましては、こうした「ゆたかさ」をどのように情報発信していき、どのようにこれを皆さんと共有し、かつ岩手の外の方にもこうした「ゆたかさ」を見ていただくかといったことについても、さまざま検討されたという次第です。

こうしたとおりですが、最初に申し上げましたように、かなり多岐にわたっています。例えば、これは私だけの考え方ではないと思っておりますけれども、決定的な処方箋があれば、「ゆたかさ」が実現するかと言え、なかなかそれは難しいかと存じます。

ただ、やはり経済合理性ですとか、効率では割り切れないといった状況はもうかなり前から指摘されているところでありますし、その意味ではこうした提言という形で、岩手ならではの豊かさ、あるいは岩手ならではの豊かさの可能性をどのようにお示ししているかといったことが重要かと考えております。

その意味では、これは委員の皆様にもご意見いただきたいところではあるのですが、経済的な指標だけでは測れないという、この測れないということを何かポジティブな言い方で言えないだろうかとも考えております。もちろん多様な「ゆたかさ」という言い方もできるのですが、ひょっとするとここで岩手ならではの、だからこそその「ゆたかさ」というのが一つぼんと出てくると、より一層インパクトを持って、あるいはまた県民の皆様が関心を持って今後も継続してご議論いただけるような、そうした提言ができるのではないかと考えております。後で委員の皆様には補足等をいただければ幸いです。

長くなりましたが、以上です。

5 提言書（案）にかかる意見交換

○藤井克己会長 ありがとうございます。ただいま両検討部会の座長様から両部会での検討状況を資料 No. 2 と資料 No. 3 に沿って説明していただきました。

委員の皆様、どちらかの部会にはご参加で、また大体同じような週、1週間前後の違いでこの間開催しておりまして、オブザーバー参加もできますというご案内もあったのですが、私も実は「人口」検討部会には全く顔を出しませんで、おそらく同じような状況かなと思いますが、もう一つの部会が似たようなことを課題として出しておられたのだなというのを改めて私も痛感いたします。かなり網羅的に、特に黒ポツでいろいろな対処方法とか課題を出しておられますけれども、どちらが「人口」でどちらが「ゆたかさ」かというのを目隠しすれば分からないようなそういう仕上がりになったという感じがしております。そういった点で何かご質問等ありましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

今年度になってから半年以上、各検討部会で議論してきましたが、資料 No. 2、資料 No. 3、同じようなつくり方でございますし、まず現状と課題、方向性を述べた上で目指す姿を記載していただいておりますが、そこにも似たような共通のキーワードが出てくると思います。

それから、大きく3項目で提言をおまとめいただいているのですが、それぞれア、イ、ウとか、また細かくテーマを分けていただいて、さらに幾つかの課題、施策の提言もお示しいただいております。いかがでしょうか。部会長さん、相手の部会を見て何かご意見とかおありでしょうか。

では、浅沼先生。

○浅沼道成委員 正直言って、もうほとんど似たようなところに収まっていると思うのです。事務局と、部会長同士の間ではある程度コミュニケーションもとれていましたので、その中では何か似たところがあるので、一つになってもいいのかなというような意見もありました。ただ、あくまで部会としての検討をしてきた以上は、部会での結論をまず出すべきだという意見もありましたので、今こういう形で、ある意味これは事務局が苦しい思いで、同じことを同じように両方に書いたのかなという経過になっています。できれば今日、お互いに自分たちが作った方が優れているとかではなくて、どうまとめていくかについて議論できればと思います。

「人口」検討部会では、人口減の中の社会減に関しては、仕事、働く場、就職あるいは雇用という部分に特化して進めようというような話もあり、この部分については、「ゆたかさ」検討部会よりは具体的な話があると思いますが、自然減に関しては、子育て部分にいきますので、これは「ゆたかさ」ともかなり絡んでいるなと思います。そういう意味で、とにかく感想としては、本当に同じことが書いており、かなり重なっているというところがすごく気になりました。

○藤井克己会長 今年度当初の予定ですと、大体3回目、4回目は各検討部会で議論して、5回目ぐらいのタイミングで総合計画審議会を9月ごろに開催しようではないかという進め方だったのですが、各検討部会でもう1回議論すれば具体的な提言までいきそうだからという、そういう経緯がございましたね。その結果、具体的なものがまとまり過ぎたと言うと怒られるかもしれないけれども、ある意味課題をもうあまり整理しないでむき出しのところから整理をつけましょうという、そういうことになったかなと思います。ですから、あまり足したり引いたりしないで、各部会での議論が今日かなりボリュームたっぷりの形で出ているかと思います。いかがでしょうか。

各検討部会に20名を折半して10名、10名で、大体、毎回6、7名はご参加いただきましたので、2時間たっぷりやりますと、十分意見交換できたかなと思います。回を重ねるごとに煮詰まっていったかなと思います。何かこの間の、本年度3回分の部会で言い足りなかったこととか、お気づきの点等ありましたら、お話しいただければと思います。いかがでしょうか。

「ゆたかさ」検討部会ですと、やはり経済的にはあらかわせない「ゆたかさ」というのも議論の半分以上したのですね。国民の平均所得と県民所得との乖離というのが一方であり、でもやはりそれでは表現できないような、ブータンの国民総幸福度ではないけれども、そういったものもあるのではないかという、それは常にこのバックボーンとして続いていたと思います。その辺が「ゆたかさ」検討部会の3つ目の多様な「ゆたかさ」、この言葉につながっていくのかなと。

では、山田座長さん。

○山田佳奈委員 ありがとうございます。確かに経済的な豊かさについては、19ページのAにも書かれていますけれども、一定の生活を支える上ではこれは当然ながら欠かせないわけですので、これにどのように付加価値をつけていくかということについては、全ては申し上げませんが、議論がありました。

また、これは私の印象ということではありますけれども、人づくりといったところ、この岩手をつくっていく人というところにひとつ収斂したというようにも考えております。

まとめ方ということについては、これも先ほど浅沼委員さんからもお話しいただいたところなのですが、このように一回は各検討部会でお出しした上で、最終的に提言書とするに当たって、もし抽出するのであればどういったところを抽出していくか、あるいはどこを強めて皆様にご提示するかといったところは、私自身も皆様にご意見をお尋ねしたいと思っていたところです。

「ゆたかさ」検討部会の中でも、何かいろいろ並んでいるのではなくて、少しポイントというのでしょうか、ちょっと強調したいところというのがあってもいいのではないかというご意見も出ていたように記憶しておりますので、ぜひご意見等々私も承りたいと思っております。

○浅沼道成委員 もう一回よろしいですか。

○藤井克己会長 はい、どうぞ。

○浅沼道成委員 肝心なことをちょっと一言。藻谷先生も講演の中で話されていましたが、基本的に人口は減っていきます。減って行って、あるところに収まる。限りなく減っていくわけではなく、当然どこかで収まる。岩手県の人口が 100 万切るなんていう話も出ながら、それを踏まえた上で、最終的に岩手県としてどんな県であればいいのかという、その像をどこで示せばいいのかと思います。

この間、スポーツツーリズムというテーマで少しお話を聞きましたが、その中で沖縄県の話もありました。ちょうど私も先週沖縄に行きまして、5年おきくらいで行っているのですが、もう観光でしか生きれないのだと感じました。だから、観光に関するところにごく投資をし、かなり姿を変えています。かなり必死です。

それに比べると今回の提言書（案）は、岩手県として5年、10年、20年後、50年後、一体どのような姿を目指すのかということが捉えづらい。そういう中で、「人口」検討部会について私が結構こだわったのが住みたくなるような地域づくりというところですが、その話をすると自然から何から全て出てきて網羅してしまう。そのため、特徴ないままに一つの形になってしまったと感じています。社会が少子化し、高齢化している中で、人口は140万人、130万人、その辺まで戻るということにはならず、やはり減っていくという話でしたから、30年後、50年後の例えば人口100万人の県としてどんな姿を目指すのかということがずっとひっかかかっていて、そんなところに意見しながら、自分たちのやっている仕事から具体的に出てくる新しい課題とかユニークな方策が出てきたような気がします。ちょっとその辺、どのように皆さん考えていらっしゃるのでしょうか。あるいは、県はどのように考えているのでしょうか。

○藤井克己会長 提言ということで、先ほど資料No. 4の説明の際にも話されましたけれども、現状に対する問題点等は、今回の2つの資料にもかなり盛り込まれていると思うのですが、先を見据えた提言が必要であると思います。来年度終了する第2期アクションプランの後の4年間のことというよりはもう少し先の、少なくとも10年先を見据えたようなところが望まれているのではないかと思います。そのあるべき20年後の姿から振り返ったら、来年どうすべきかとか、そういった形でまとめる必要があるのではないかなと思っております。

そういう点では、人口減少は確実に避けられないわけで、そうしたときに医療、福祉、教育といったような、最低限度のサービスを県民が受けられないようではいけませんので、そういったものを守りつつ、どういったものを打ち出していくかということだと思っておりますけれども、いかがでしょうか。もう少し今のような視点から、他方の検討部会の資料も

ご覧いただいて、改めて何か共通の方向性のようなもの、持続可能な岩手県に向けて、希望郷いわてをを目指すようなこと、あるいは、個別のことでも結構です。

では、谷藤委員、よろしいですか。

○谷藤邦基委員 具体的なところから言うと、両検討部会の提言書（案）の目指す姿を見比べていたとき、中身はそれぞれ結構だと思うのですが、岩手の表現が「人口」検討部会さんは平仮名で、「ゆたかさ」検討部会は漢字になっているのですね。小さなことですが、意外に小さくないというか、「希望郷いわて」の「いわて」も平仮名なので、「ゆたかさ」検討部会もこれは平仮名で統一した方がいいと思います。

そういったことも含めて、こういう提言を出したときに、時間のない方など目次とはしがきだけ読んで全体像を理解するというような方も時にはいらっしやると思います。そう思って、この目次を見ていますと、「ゆたかさ」検討部会の（１）のウのところ、「戦略的な企業誘致を進める」というのがかなり明瞭なイメージの言葉として出てくるわけです。他の例えば、「付加価値を高める」とか、「多様な働き方を可能にする」と比べると、企業誘致というのはかなり明確なイメージがある。だから、何か企業誘致にウエートを置いた内容なのかなというイメージを持たれると、相当間違ったメッセージになってしまうので、ここは少し工夫が必要かと思っています。

というのは、実際に本文を読んでいただくと、企業誘致について従来の捉え方ではない位置づけをしているからです。昔と違って企業誘致を進めれば雇用がそれにつれて増えていくという状況ではないわけで、実際に製造業の就業者数は、震災前の段階で既に昭和 55 年レベルを下回っています。出荷額は、昭和 55 年を基準にすると、2 倍ぐらいになっていますが、就業者はその時点のレベルを既に下回っています。

ということは、何が起きているのかということ、製造現場ではまず 1 つは労働集約型、人手をいっぱい使うような仕事というのはもう日本に残っていないということです。これは、岩手県そのものが経験してきたことですね。あるいは付加価値がいっぱい稼げるようなところであっても、ロボットがどんどん人間の仕事を奪っている。

ちなみに、23 日、土曜日の岩手日報にトヨタ岩手 20 年という論説が出ていました。ここにももの見事に書いてある。「輸送機械、自動車関係製造品出荷額は 6,858 億円で全産業の 3 割を超す。」、これは非常に結構なことですが、「従業者数も 7,404 人と、全体の 1 割近い。」という次の一文が問題です。要するに、出荷額は 3 割だけでも、従業者は 1 割しかいないということです。逆に言うと、それだけの人数でそれだけの出荷額を稼げるということです。つまり人が稼ぐ場所がどんどんなくなっている。

このことに関して、今年、話題になった本で、例えば「機械との競争」があります。これは、アメリカの学者が書いた本なので、日本だと翻訳が出ているはずですが、とにかく機械がどんどん人間の仕事を奪っていくと、機械との競争が起きているということが書かれています。

もう少し遡れば、国立情報学研究所の新井紀子先生、今「東ロボくん」とかいて、ロボットで東大入試合格できるかどうかというのを一生懸命やっている先生ですが、その方が数年前に「コンピューターが仕事を奪う」という題名の本を書いています。結局今起きていることというのは、コンピューターができるようなこと、ロボットができるような仕事はとにかくどんどん置きかわっているということです。

極めつけが、つい先だって、2、3カ月前ですけども、「Average Is Over」という本がアメリカで出ました。平均は終わったということです。今までは何とか平均点をとってれば、そこそこの大学に行って、あるいは学校に行けて、そこそこの就職ができて、そこそこの生活ができた。平均点とってれば何とかあったという時代が今までというか、数年前までなのです。ところが、今は平均点ではもうどうにもならない状況になってきています。何か特徴がなければ生きていけない。その辺の問題意識をかすかに示しているのが、資料 No. 3 でいいますと 18 ページのところ、表のところ、下から 5 行目の 3 行です。雇用に関しては云々というところ、ここにわずかにその問題意識が出ている。これだけでも盛り込まれたというのは一歩前進とは思っていますが、本当は、この辺もっと強く問題意識をにじませたいと私は思っています。こういうことが前提にあるので、例えば、「付加価値を高める」とか、こういったことが必要なのではないかといういろいろ具体的な話が網羅的に書かれていますけれども、なぜこれが出てきたのかというあたりがもう少し分かるような書き方にしないと、メッセージとしてうまく伝わらないのではないかと少し思っていたところです。

話を元に戻しますと、だから目次だけ見た人は、多分そこまでの問題意識を受けとめてくれないだろうと思っています。ただ、それは目次というものの限界もありますので。

もう一つ、「人口」検討部会さんとの違いを見ていますと、「ゆたかさ」検討部会の方は、事務局が苦勞して作ってくれたのだと思うのですが、(1)、(2)、(3) それぞれに副題がついています。この副題がこれでいいかどうかという話は一応脇に置いておいて、こういった副題を目次に盛り込むことによって、もう少しメッセージ性のあるものにしていければ、目次そのものもいいのかなどと思っています。

いろいろ申し上げましたけれども、今の時点で感想めいたことを申し上げてみました。

○藤井克己会長 資料 No. 1 の 1 ページの扉を開きますと目次がございまして、ここに資料 No. 1、2、3 が入っております。4 の「目指す姿と施策の方向性」において上が「人口」検討部会で、(1)、(2)、(3) となっております。18 ページから「ゆたかさ」検討部会で、これは資料 No. 3 ですが、これも (1)、(2)、(3) となっており、それぞれまたア、イ、ウ、エとあります。大体これで一覧できるようになっております。確かに谷藤委員がおっしゃるように、幾ら立派な文章を書いても、一般県民の方は、ぱっと広げるとこの見出しだけで終わってしまうおそれがある。今、「人口」と「ゆたかさ」と見比べますと、確かにキーワード的に同じものがあります。それが目につくのは企業誘致ですね。これは「人口」

の方にもあります。「働く場を確保する」、(2)のイですね。それから、「ゆたかさ」の方では、(1)は「強くしなやかな地域経済システムをつくる」というところに、ウで「戦略的な企業誘致を進める」ということなのですが、これだけ見れば何か積極的に呼んでこうと見えるのですが、実は中身はそんなことではありませんよ、ということは今、谷藤委員から説明があったところです。働く仕事の中身が、知識集約型の仕事が増えていますので、そういったものがまた仕事を奪うような構図がありますので、その辺についても「ゆたかさ」検討部会では意見交換したところです。

1ページの目次を見比べますと、本当に「人口」と「ゆたかさ」とかなり対応するところがあると思います。「人口」の(3)「安心して暮らし、みんなで子どもを育てる地域をつくる」と、「ゆたかさ」の(2)「お互いを認め合い、支え合う地域をつくる」、が対応している。「地域をつくる」という、最後の終わり方は同じなのですが、やはりお互いを認め合うとか、みんなでというところが重複しています。子育てしやすいという項目も両方とも出ています。医療、福祉こういう項目も関係していると思います。

となると、「人口」の(1)と「ゆたかさ」の(3)は、「人口」では「誰もが住みたくなる地域」は、「ゆたかさ」の「多様な「ゆたかさ」」につながっていくようにも読み取れます。点と点を結ぶようなことをやっても意味がありませんが、今、目次を見て気づきました。

どうぞ、お願いいたします。

○早野由紀子委員 人口部会に参加しておりましたけれども、今回「ゆたかさ」検討部会の案も拝見いたしまして、7ページのその他の指標になりますが、こちらは自然とか食料、住居、家族、子育ての観点から掲載しているということですが、どの項目も岩手の順番がすごく微妙な位置にあります。1位の項目が一つでも入ることによって、岩手の方がもう少し自信を持てるのではないかなと思います。例えば伝統芸能が1位とか、温泉でつるつるになるのが1位でも、何でもいいと思うのですが、ぜひクリアしていきたいなと感じました。

岩手は、1周遅れのトップランナーによく例えられたりしますが、やはり自分たちは豊かなのだ、トップなのだというような自信というか、私は岩手に住んでいるので、岩手出身だよということを自信を持って言えるというのが本当は豊かさの基本になっていくと思いました。豊かさは順位をつけられないかもしれないのですが、指標の中では自信を持てるような項目も加えていただけたらいいと感じました。

以上です。

○藤井克己会長 ありがとうございます。

ほかに話題になった指標というのはありましたか。この辺も少し検討したいと思うのですが、隣県の秋田、青森あたりと比較して議論したことも多かったと思います。時期的に

例の学力テストの問題で、岩手県はトップではないですけれども、逆に秋田がトップで、この辺の違いは何ゆえにとか、そういうのも議論しましたね。

そうですね。持ち家延べ面積、三世代同居率、この辺で学力のときに話題になったのが、北陸3県がやはり高いですね。秋田もそうですけれども、北陸3県の高さは三世代同居と関係があると聞いたことがあります。秋田も高いですが、福井とか新潟、富山、あの辺が高いですね。やはり、おじいさん、おばあさんが教えるような、そういう構造もあるのではないかと。そもそも教員の教育力も高いというデータはあるようです確かにナンバーワンというのが欲しいですね。おっしゃるとおりでございます。

吉田委員どうぞ。

○吉田基委員 吉田です。この提言は、県内に向けて発表するものだとは思っていますが、もう一方で東京に行ってしまった県内出身者の方に向けても魅力的な提言になって欲しいという思いがあります。岩手に戻るとこんなにいいことがあるよという提言になって欲しいと思います。

この間の藻谷先生の話にありましたけれども、確かに県民所得は低いですが、その分簿外資産といいますか、自然、道徳、伝統、おいしいものも多いということがあると思います。そういったものを享受しているのだという積極的な自覚が必要だなと思っていて、先ほど会長からもお話がありましたように、三世代同居なども魅力の一つだと思います。

21 ページに書かれている「地域全体で定時退社の奨励」についても同様だと思います。みんな所得を上げるために一所懸命残業しますが、それで本当に所得が上がっているのかというとそうでもない。逆にぱっと帰ってしまうということによって、こういった簿外資産の部分を楽しめる世の中になるのではないかと、そういう岩手になるのではないかなと思います。早く帰って、いろいろな伝統文化をお稽古で覚えたり、積極的にコミュニティーと関わるとか、そういったことも岩手の魅力になっていくのではないかなと思います。少し小さく書かれてしまいましたけれども、「定時退社の奨励」というのは私が言いましたので、よろしく願います。

○藤井克己会長 労働生産性を高めて早く帰って地域で頑張り、地域文化の担い手になりましょうということですね。

谷藤委員より指摘がありましたように、(1)、(2)、(3)の右脇に小さめの字で、それぞれ言いかえたスローガンについても議論が必要なところございました。

いかがでしょうか。千田委員、どうぞ。

○千田ゆきえ委員 「ゆたかさ」検討部会の千田です。先ほど早野委員がおっしゃっていたのにすごく共感しました。企業で言うと目標管理というものがありますが、目標を数値化することは実はすごく大事ではないかなと個人的にも思っております。豊かさを数値化

することはすごく難しいと思うのですが。

「ゆたかさ」検討部会の中でも、先ほど山田委員もおっしゃいましたが、すごく漠然としていて、何をもちょうと豊かとするかというのは難しいところで、イコール数値化するというのはさらに難しいと思いますが、豊かとは何かと考えたときに、先ほどの食料自給率のお話もそうですが、一つ一つにおいて何か1位を目指すなり、具体的に目標を数値化するというのは大事ではないかなと思いました。

それから、これも早野委員にすごく共感したところではありますが、私は東京の大学に行っておりましたが、その時、実は、岩手県出身と恥ずかしくて言えませんでした。出身どこ？と言われると、東北です、というふうに濁したりとかして、何で恥ずかしかったのか、今もよく分からないのですけれども。今はもう30歳を超えて、仕事で東京などにも営業に行っておりますが、岩手県出身、今岩手に住んでいるということは、私にとってすごく大事なアイデンティティーの一つで、とても誇りに思っています。そういう思いで岩手に会社があるのですとか、岩手出身なのですと、すごく誇りを持って全国のいろいろなお会いした方に話ができます。それというのはやはり岩手の魅力というか、いいところだなと自分自身が思うからこそ、多分他人にもそういうように言えるのではないかなと思うので、例えば若い人たちというのは、どうしても東京に憧れがあったりして、なかなか岩手の良さというものが理解できない部分もあるかもしれないのですけれども、そういった部分で、もっともっと若い世代の方たちとか、いろいろな世代の人たちが岩手出身だとか、岩手に住んでいるということを誇れるような方向に向かえばいいかなと思います。

○藤井克己会長 どうもありがとうございました。

山田委員どうぞ。

○山田佳奈委員

座長というよりは、一委員としてよろしいでしょうか。今、千田委員さんがおっしゃってくださったことにちょっとご質問なのですが、大事なアイデンティティーだと思えるようになったということですが、これはどういったことで思えるようになったのかそこをぜひ伺いたいのですけれども、いかがでしょうか。豊かさの実感みたいところで。

私は宮城から来させていただいていますけれども、他の地域に来て、ようやくこういうことだったのだなというのが、あと年を重ねてきたということもあるかもしれませんが、違うところに行ってみて初めてそれぞれの豊かさというところを感じられるようになってきたなという感じはするのですけれども、どうやったらこういうふうに思っていたかかずっと悩んでいたものですから、ぜひ教えていただきたいと思います。

○千田ゆきえ委員 年をとったからというのもあるでしょうけれども、多分私が一番思うのは自然です。先ほどの吉田委員の話にもありましたけれども、仕事だけが全てではない

というか、仕事以外の部分での生活の充実というか、そういうところだと思います。すごく個人的なことですけれども、東京から戻ってきて一番感じたのは、夕焼けがすごくきれいだなと思って、岩手の夕日にすごく感動して、毎日空に元気づけられたというか、そういう部分などです、私自身は。すみません、答えになっているか分からないですけれども。

○山田佳奈委員 ありがとうございます。先ほど早野委員がおっしゃったこととも重なりますけれども、どうやって豊かさを実感していただけるかという、私から見ると岩手はすごく豊かさのポテンシャルの高いところだと思いますので、それがずっと悩みだったものですから。そこをうまく実感していただけるようなきっかけとして、次につなげてさらにプラスアルファできればいいなと思っています。ちょっと今、自分のアイデアが切れています。ありがとうございます。

○藤井克己会長 米澤委員どうぞ。

○米澤慎悦委員 今の千田委員のお話、私も似たような経験がありました。

前にもお話ししたのですけれども、私は医療技術者で、東京の大きい病院に一回勤めたのですが、最終的には今のところに帰ってきました。それで非常に大きかったのは、病院の歓迎会だとか、いろいろな会議で岩手県の沢内村出身ですと言うと、ああ、あその沢内かというふうに皆さんおっしゃったことです。私が東京にいたころはもう三十数年前ですから、本当に沢内が有名になってまだ何年も、そんなに年数もたっていないということもあったかもしれません。医療技術者の中には、沢内というと、ああ、あの乳児死亡率ゼロにしたところかとか、保健医療の村かとか、深沢晟雄のところだとかということをよく言われたのです。職種的なものもあったかもしれません。私がそういう道を志したのは、かなりそういった影響を受けたというのがありますので。東京に出て、毎回そんなことを沢山言われて、ますます岩手、沢内のすばらしさというのを実感したのです。やっぱり帰ってこれを継承していかなければいけないのだなという思いで帰ってきたのです。

ですから、岩手では、今、先人教育というのを一生懸命やり出しているところだと思うのですけれども、岩手には本当にすばらしい人がたくさんいて、その人たちも岩手だということをもっともっと教育していかなければいけないと思います。私も地元に行ったときはそんなに強くは思っていなかったのですけれども、逆に東京に出て初めてそういった思いを強くしたというのがあります。

それから、向こうにいと車ももちろん持てない、遊ぶのにもお金がかかる。例えばスキーに行くのも、夜行バスに乗って大変な思いしてお金かけて長野などまで行っていました。地元にいるときは、いつでもできるので、そんなにスキーなんて行っていなかったのですが。でも、逆にいつでもできるとやらないのですけれども、そうして行ってみると、テニスをやるにしても、ゴルフをやるにしても、何をするにしても、すごくお金がかかる

わけです。ですから、やはりそういった岩手の自然だとか、いろいろな魅力がありますけれども、そういったことも安くできますし、やりたいことは何でもできるのです。そういったことももっともっと分かってもらうような取り組みをしていかなければいけないのかなと思いますし、それからいろいろな方、先人の教育をもっともっとしていかなければならないのではないかなと思います。今、例えば深沢晟雄といっても、沢内の人でも子供たちは知らない人がいっぱいいると思います。ですから、もっとそういう人たちを、何かすばらしい人たちがこの地にはいたのだよというところを生かしていければと思います。

○藤井克己会長 はい、どうぞ。

○山口淑子委員 岩手県医師会の山口です。今の米澤委員の話にもあるのですが、岩手の良さというのは住んでみないと分からないことが沢山あると思います。外から聞いただけでは分からないことがあって、私も医者になって4年目に岩手にやってきました。そのときに、東京では医者の世界は競争社会で、がつがつと仕事していましたし、させられたのですが、こっちに来てのんびりした気持ちになったこともあって、子育てもしやすいし、そんなに競争しなくてものんびりと勉強ができたということを感じながらここ30年過ごしてきました。今、「人口」検討部会と「ゆたかさ」検討部会の提言書（案）を見ていて、「人口」検討部会でも「ゆたかさ」検討部会でも子育てについて書いてあって、「子育てしやすい地域をつくる」というのが「人口」検討部会で、「ゆたかさ」検討部会は「日本一子育てしやすい岩手」ということで、中身はほとんど同じことが書いてある。みんな考えていることは同じなのだと思いました。

そこで、子育てしやすいこととか、子供を産みやすいことというのは、産科医療とか小児科医療の充実とかと書いてあるのですが、今、岩手県では医師不足とよく言われていますけれども、医師不足というのは、この広い岩手だから医師不足であって、もう少し便利になれば何も医師不足ではないと思うのです。手軽に医療機関にかかれるようになるわけです。広くて交通が非常に不便だから、なかなか医療機関がないとか医者がいないとかと叫ばれるのであって、今回の震災でもすごく感じたことは、やはり交通機関がしっかりしていないということ。それから、私も県の医師会の仕事で全県へよく行くのですが、何しろどこに行くにしても、このことが解決できれば、この医療の世界とか子育ての世界というのはもっともっと良くなると思っています。

だから、住みやすいといっても不便であるということは事実なわけで、前から森奥委員が久慈は遠いということをよく言ってもらえるように、本当に環境整備というか、インフラ整備というのですか、私ちょっとそういう用語はあまり分からないのですが、それをしっかりやればもっと岩手は住みやすくなるということは事実です。私は毎日岩手山を眺めて暮らしていますし、冬の青空を見ると、ああ、寒くてもしょうがないかというような気持ちでいるので、もっと住みやすくなれば、もっと岩手は魅力的なところになる

のだろうなと思います。

それから、今の医師不足も 100 万人になれば大丈夫かなという感じもしないでもないです。

以上です。

○藤井克己会長 ほかは。中村委員。

○中村富美子委員 中村です。子育てに関して、どちらも子育てしやすい環境、地域をつくと明記されているのですが、現在の状況でいきますと、私の同級生なども、早くに結婚して、そろそろ離婚組という人たちも結構出ておまして、シングルマザーだとかシングルファーザーの率が非常に増えてきております。どちらを読んでもやはり結婚ありきで、夫婦、そして子供という流れで子育てする環境を書いているんですけど、ここで一步現状に踏み込んで、シングルマザー、シングルファーザーも安心して子育てできる岩手という形で、こういった一文を含めてみると、各地域を比べても進んだ提案になるのではないかなと考えました。

それから、結婚に向けた支援を行っていくことについて、まず結婚支援相談センターの設置とか、街コンとかということが挙げられているのですが、実際街コンをやっても 600 人呼んで 2 組成立とか、あまりパツとした結果に結びついていないようです。一つおもしろい案がこの間ニュースに出ていたので、紹介させていただきますが、どこの大学か忘れたのですが、全国ナンバーワンの就職率ということで、全生徒が就職を勝ち取る大学があったのですが、そこでは就職支援課というところが内定が決まっていない学生を個別に全員呼び出しをしまして、各自面談の上、適切な会社とのマッチングを行うという制度をとっております。その結果、誰も失業することなく卒業していくという流れをつくっているのですが、これを婚活制度に落とし込んで、適齢期になった未婚の男女は強制的に、少し言い方が悪いのですが、半強制的に任意で同行でないのですが、役所内にそういう婚活支援センター、自治体が呼び出しをして、いろいろ面接なりした上でマッチングをするということを制度として盛り込んでいったら、意外と街コンとかやるよりも効果が出るのではないかなと思いましたので、試しにテストケースでどこかの自治体でやっていただけたらなと思っております。

以上です。

○藤井克己会長 ありがとうございます。合計特殊出生率、この数字が 7 ページに出ていまして、岩手県がちょうど中位ぐらいになるのですが、沖縄が非常に高いですね。沖縄県から島根、宮崎、鹿児島、長崎、熊本、佐賀、西高東低ですね。結構県民所得で考えて低いところが並んでいます。西の方は、県民所得が低いにもかかわらず、出生率が高い。北の方の、いわゆる北東北 3 県、青森、岩手、秋田というのはどうも中位ですね。この辺

を少し比較検討しなければいけないかなと、「ゆたかさ」検討部会でも議論になったことでもあります。シングルでも育てられるような環境づくりとか、働き場があって、皆さんそういうことが大事になるのかなと思っております。

○菊田悌一委員 菊田と申します。ずっと考えていたのですが、なかなかいい案が浮かばないのです。部長さんのご挨拶、菊池さんのご挨拶でもおっしゃったとおり、今度の長期計画を超えた部分での目標ということで、何か本当に誰でも分かるような目標があればいいなと、それが具体的であったらもっといいなと思って、ずっとこの場でも、それから検討部会の中でも何かないと駄目だよなと、現状分析だけでは駄目だよなと、目先のことにこだわった振り分けだけでは駄目だよなとずっと思っておりました。

そこで、ほどほどということ考えたときに、このままだと 30 年後は 93 万人になりますよというお話があったのですけれども、先ほどお話があった 100 万人を目標にしようと。そして、これから健康で長生きをする日本一寿命が長い県を目指す。100 歳までという、きんさん、ぎんさんをつい思い出してしまうのですけれども、100 万人の人が 100 歳まで生涯現役を通せる岩手みたいな、何かそういった目標があったらいいなということを書いて、それが今たどり着いたところなのですけれども、100 万人が 100 歳まで、そして生涯現役で魅力のある岩手で過ごしていくというようなことが、今の時点で自分で思うところなのですけれども。

というのは、実は今、保育園を建てようということで、リンゴ畑の一部を切りました。そのときにちょうど今年 100 歳になるリンゴの木がその中に 4 本ありまして、そのうちの 1 本は全く幹が腐っていませんでした。それで、木を切るプロの方たちがリンゴの木の芯が腐っていないということはまずあり得ない、奇跡だ、奇跡だと皆さんがおっしゃるので、ではこの木をそっくり根ごと掘って利用しようということを書いておりました。

これから生まれてくる子供たちが、例えばいろんな施策を通して、日本一子育てしやすい県とか、そういったことも全て通して、そして本当に 100 歳まで長生きできればいいなということを書いて、その木をひとつ保育園の象徴にしたいなと思ったのですけれども、もし岩手県の人たちが本当に 100 万人、想定の数よりも 7 万人、いろんな努力で増えてそして 100 歳まで、そして本当に生涯現役で定年を超えても第二の人生、第三の人生の職場を得て働き通していく。そして、最後まで社会のために役に立っていくような岩手ができたらいいなということを書きます。

それから、もう一つは、この広い県土の中でやはり出会いがなければ駄目だなと思えます。いろいろな文化とも人とも、あるいは仕事でも出会いがなければ駄目だなということを書きます。伊藤博文は自分の 500 メートル離れたところに来た松下村塾に入ることによって最初の総理大臣になった。そこがもし歩いて通えなかったら、その塾に入らなかったら、日本の歴史もきっと変わっていただろうと思えます。そういった日本の歴史を変えられるような方たちがこの広い岩手の中にたくさん埋もれてしまわないように、その出会

いがどンドン、どンドンできていくような岩手、それは出会いというのは様々なものとの出会いなわけですが、そして体験ができて、自分の専門性を生かしていけるような岩手になっていったらいいなと思います。

観光のキャッチフレーズでも、何とか岩手というのではなくて、出会い系岩手みたいに奇抜に、出会い系岩手って何だと、わくわくしながらということも含めて、何かそういうどこか奇抜で大胆であるようなものをこの委員の皆さんと一緒にこの2月までの間にキャッチフレーズになるような、誰でも分かるようなものも探し出していけたらなと思っておりますし、これからもずっとそれを考え続けますけれども、今のところはなかなか思い浮かびません。

○藤井克己会長 どうもありがとうございました。

では、鎌田委員。

○鎌田仁委員 「ゆたかさ」検討部会、鎌田です。そろそろ時間もなくなってくるので、私から話しをします。私どもは、沿岸にいて、沿岸は震災があったからとかないからとかではなくて、人口はどンドン、どンドン減っていくのが目に見えているのです。

その中で、元々、内陸、沿岸との格差はあるのですけれども、何とか人口が減るのを沿岸の方も食い止めていかないと、このゆたかさの方にもつながっていかないのではないかなと思います。私どもも、沿岸地域が、希望にあふれるいわてだとか、希望郷いわてという中で、夢というのを子供たちに考えて欲しいと思います。そうした、夢を形に、そして形を現実にするために我々がこれからますます岩手のために、生活していくということなのだと思えます。

沿岸の方でどンドン、どンドン人口が減るのをどうにか食い止めていくためにということで、先ほど早野委員が何か1位になるものは岩手ではないのですかというお話がありました。岩手は養殖ワカメの生産量が日本一なのですが、もちろん普代村、そして大船渡、いろいろあるのですけれども、1次産業をする漁業者が、もう本当にあと5年、10年したら多分半分になるのではないかというくらいどンドン減っていつているのです。

漁業なんてというのは60歳過ぎてから、では漁業やりましようといってもなかなかできないものですから、「ゆたかさ」検討部会の21ページに週末農業の支援がありますけれども、週末漁業の支援とか、これから沿岸の方は漁業や海とかをテーマにして、ブルーツーリズムですとか、そういうことで交流人口や人口を増やしていかないといけないと思うので、何とか人口を沿岸の方も、内陸の方もそうなのですけれども、九十何万人になってどういうふうになるか分からないですけれども、もっともっと人口を増やすというか、他から人を受け入れる、そういうような提言というか、そういうところをもう一度何か考えていかないと駄目なのではないのかなと思えました。

以上です。

○藤井克己会長 鎌田委員は「ゆたかさ」検討部会におられたのですね。そういう点では、「人口」検討部会でももう少し言いたかったのではないですか。ありがとうございました。では、佐々木委員。まだ時間ありますので、どうぞ遠慮なくお願いします。

○佐々木裕彦委員 医療、介護、福祉の立場からですが、言葉や文字にするとこのようなことですが、何か言い尽くせていないと思っています。

例えば、高齢者の問題については、15年後にピークを迎えて、20年、30年と大勢の方々をあの世に見送らなければならない時代が来るということがあります。その切り札として、介護保険制度が牽引車になりそれをリードしていくわけですが、これまで全世界が経験したことのない世界初の実験的試みであり、そのあたりをどのように表現するかが難しくこのような表現になっています。

これから各部署の計画に落とし込むときに、この細かい項目が役立つかと思ってお示したつもりですが、最も言いたいことは、かつてない創意工夫が求められているわけですので、それをどのようにしたらいいかについては、前例とか予算を考えてできる代物ではないので、枠組みを超えた創意工夫の議論をお願いしたいと思います。その切り札として地域包括ケアシステムを市町村につくってもらうわけですが、これがまさしく地域づくりでございます。ああ、良かったと思ってその仕組みの中で最期を迎えられる地域づくりは高齢者、障がい者のみならず、一般住民も全て含めたコミュニティーづくりと、それを実践する人づくりになります。点から線に、線から面へのつながり、その社会関係、人間関係をどのようにつくっていくかという課題です。文言の表現についてはもう少し考えてみたいと思います。

以上です。

○藤井克己会長 ありがとうございます。

山口委員、どうぞ。

○山口淑子委員 すみません、ちょっとだけ。岩手県の平均寿命が短いのはご存じですか。

○藤井克己会長 青森と岩手は短いです。

○山口淑子委員 ですよ。

○藤井克己会長 これまで沖縄が長かったのですけれども、また長野も。

○山口淑子委員 長野はずっと上位にいて、岩手県は多分下位だったと思います。

生活習慣病についても岩手県は非常に悪くて、そのために子供たち、学校保健の世界で

は大人的生活習慣病予防のために子供の時期からやろうということで、いろいろな活動をして、学校の先生方も四苦八苦しているという現状です。だから、健康についてももう少し、健康増進についての考えというものを入れてもいいのかなと思います。

以上です。

○藤井克己会長 そうですね。長野は、農村医療の先進県ですけども、減塩と禁煙の取り組みで、沖縄を抜いたと聞いております

○山口淑子委員 沖縄は駄目になってきていますが。

○藤井克己会長 そうそう、沖縄は落ちてきたのですね。
ほかに。では、榎屋委員。

○榎屋伸夫委員 榎屋でございます。先ほど来、子供を産み育てやすい社会づくりということでお話がございます。吉田委員さんからもお話がありましたし、「ゆたかさ」検討部会でもテーマに挙げておりますけれども、やはり抜本的には、働き方を見直すことが、正規の定時退社が、可能な限り第1次産業も、いろいろな製造業等も、そうなれば少しは先が見えてくるのかなというような気がします。ただし、賃金を下げない、そしてその中で雇用者不足は、女性、高齢者等々をどんどん活用していく。そのことによって、早く帰れるから男女共同で子供を育てられ、あるいは未婚者の出会いの時間もできるといったような仕組みでうまくいけば良いなと思っております。

それから、指標のことですけども、その他の指標で合計特殊出生率の表があるのですけれども、やはりこういったものは国内だけでなく、ヨーロッパで、これがグンと回復しているところの例等も見習いながら、参考にもしながら取り組んでいく必要があると思います。労働を5時なら5時で打ち切る。そういった地域がどんどん出生率が上昇するといったようなことを参考にすべきだなと思います。

それから、所得の指標以外の豊かさの部分ですけども、考えてみますに、震災で豊かさも幸せも全然考えることができなかつた方々がそこから立ち上がっていくという段階にある中では、支援をしてくれた方々とのつながりでそれを感じたり、あるいは仕事にやっと戻れたといったようなことで感じたりということで、それぞれ段階的にあるわけですが、私は、地域の歴史、文化、伝統、これに誇りを持って、そしてこれを守り育てていく、次の世代につないでいくといったことが最後の豊かさということで考えてきました。そういった意味で「ゆたかさ」検討部会の中にある考え方、非常にいいなと思ったところがございます。

以上です。

○藤井克己会長 ありがとうございます。

では、森奥委員、お願いします。別に全員に強制するわけではないですけど、まだ時間ございますし、どうぞ。

○森奥信孝委員 冒頭、早野委員が資料 No. 1 のその他の指標について、岩手県の1番がないということをお話しされましたが、私も指標を見て感じたことは、岩手県は1番がないにしても、ほとんど10位以内を占めており平均点以上です。逆に東京都を見てみると最下位がほとんどで、住む環境というのは東京が一番悪いわけです。

東京は、岩手と比べ自然も少なく、仕事面でも時間に追われ競争も激しく弱肉強食のジャングルですし、どの面から考えても若者が何で東京を目指すのかな、何で魅力を感じるのかな、何で戻ってこないのかな、といろいろと考えてみると、単に都会への憧れだけだったり、自分がやりがいを感じる職場があることだとか、やりたいことができる職場があることだとか、いくつもの夢や可能性を描けるということと、他に考えるとすれば人件費が高いということかもしれません。

例えば、高卒求職者の立場からしてみると、求人票での比較で地元と東京との人件費の違いは確かに魅力かと思えます。地元と比べてお金がかかる生活のことなどは全く度外視して東京に出ていっているわけですが、給与格差を縮めることは考えなければいけないと思っています。しかし、私も久慈市で製造業を経営していますが、東京に勝てる給料を払うことは今の段階では正直言ってできません。先ほど谷藤委員がおっしゃったように、製造業の多くは労働集約産業で、非常に厳しい状況の中で会社を運営しているのが現状ですから、背伸びして給料を高く払っても会社が潰れてしまったら何もならないわけです。ただ、今後においては、そうした厳しい社会環境の中において、少しでも賃金の見直しを図れるような業績向上への取り組みや、また、製造業であっても技能職であるというプライドを持てるような魅力を感じる仕事内容にしていかなければいけないと考えています。

そして、この問題は、「ゆたかさ」にもつながると思います。やはり「ゆたかさ」というのは心の豊かさだけでなく、家庭生活を送っていく中で最低限安定した収入がなければ豊かさを感じないと思うのです。それは子育てがよい例です。子供をつくろうと思っても、まずつくる前に1人産めば最低でも幾らかかる、などの先立つものから始まり、その後の子育てにおいて学校に入れるのに幾らかかるとか社会に送り出すまでの長期将来的にわたり資金的不安を持つと思います。しかし、その不安はあるものの子育てをしながら将来への夢を持って家族生活をしていくことが大切で、そういう将来的な夢を地元においても描けるような、やりがいを感じ、働きがいのある魅力ある企業づくりを目指すということが我々企業側の使命であり、「希望郷いわて」づくりにとっても大事な取り組みだと思うのです。

そんな中で参考までに、平成26年3月に卒業する新規高等学校卒業者の求職動向というのがハローワークから出ていますが、盛岡、釜石、宮古、花巻、一関、水沢、北上、大船渡、二戸、久慈とあって、久慈管内は来年卒業予定者が618人と前年に比べて68人少ない

のです。これは少子化による影響が大きいと思いますが、就職希望者も今年度と比べ73人減ります。これは進学も増えるということもあると思いますが、問題は管内に残りたい、久慈市に残りたいという地元就職希望者の数が今年137名だったのが来年の3月は82名と前年と比べ55人も少ないのです。これは県内の他の地域と比べてみると断トツに低く、40%の減少率となっています。次に低いのが二戸12.5%、次が花巻7.0%、逆に前年よりも地元に残りたいという人が増えているところが大船渡、盛岡、宮古、水沢、北上です。この高卒者の減少問題は久慈管内にとって大変大きな問題です。これを何とか食い止めていかなければいけない。人口を増やす以前に流出を防がなければいけない、ということは以前より問題視していましたが、来年はいよいよそれが更に重大な問題になっているのです。逆に地元就職希望が増えている県内他地域の場合、様々な要因を考えてみると、盛岡などはわざわざ東京に行かなくても様々な職種があり収入の部分でも安心して稼ぐことができるとか、あるいは沿岸部でも短期的かもしれませんが、復興関連で求人数が大幅に増えているという部分もあると思います。ところが、同じ沿岸部の久慈は40%減、その原因を考えてみると色々あると思いますが、先ほど山口委員がおっしゃってくれたように、久慈は県北の陸の孤島と言われているぐらいですから、道路交通網の整備も遅れているし、変化もなく、地元で働きたいという魅力を感じず、地域間格差を感じて若者が将来的に夢を描けるような条件がそろっていないなどのことが主たる要因かもしれません。

そこで県内各地域で抱える問題、支援する問題、あるいは取り組んでいかなければいけない問題と色々あると思うのですが、久慈市の場合は人口問題からしても高卒者を中心に若年者の流出をいかに食い止めるか、ということが重要な問題だと思います。魅力ある地元づくりには、まず、雇用の場の整備が必要で、いつ来るか分からない誘致企業をあてにするのではなく、既存企業がもっと若者が夢を描ける、やりがいを感じることができる企業づくり、そして地域間格差を感じない収入が得られるような賃金体系がつかれ、継続的に常用雇用ができる強固な企業づくりという取り組みを行わなければならないと思います。

その観点からしても特に県北、沿岸地域に対しては、既存企業へのフォローアップというものに力を入れてもらいたい。そして、遅れている道路網の整備は産業のパイプ役としても大切であり、また、現在、盛岡には二時間半、新幹線「二戸駅」にも約一時間かかっているなどの地域間格差の問題にも伴い、特に横軸の道路の整備を早期に手がけてもらいたいと強く要望します。地域での産業の発展こそが「ゆたかさ」にも人口問題にもつながっていくのではないかと思います。

○藤井克己会長 どうもありがとうございました。地域を反映してのご意見でございました。

ほぼ予定の時間が参りましたので、意見交換をこれで終了してよろしいでしょうか。特段何か重ねてご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、浅沼委員、簡単にお願います。

○浅沼道成委員 一言だけお願いしたいと思います。

先ほどの千田委員さんのご発言それから米澤委員さんもお話ししてくれましたけれども、僕らの時代というのは、私は55歳ですが、私の上の年代あたりでは岩手は日本のチベットとかそんなことを言われた時期があったような気がします。そこに後ろめたさはなかったのですが、先程のご発言で、こんなに若いのにそんなことを思っていたのだなと思ってびっくりしたのですが、私はそれが無いのです。逆に今、岩手に住んでいることが誇りというよりも、どこへ行っても岩手ですと言える。それは決して最近ではなくて、大分前からそうです。

先ほどなぜかなという答えを山田委員が求めていらっしゃった中で、実はこの間、沖縄に行ったときに、例えば鍾乳洞が観光人気2番目ということだったのですが、龍泉洞の方がはるかに素晴らしいですし、それから私が岩手から出ていた時期は安比がすごかったのです。皆さん全国の人が、安比、安比と言うのですね。逆に安比は一度も行ったことなかったのですが、誇りに思っていたのです、岩手にあると。そういった意味で、実は岩手、僕らは外から岩手の良さを知って、逆にうれしくて自慢になってきたということがあるのです。

だから、僕らは岩手の良さというか、誇りになる部分を再発見していったほうがいいのかと思います。ただ、先ほどの話の中でもありましたが交通網がやはり大切だと思います。要するに北山崎に行くとか、いろいろなところに行くにしても時間がかかり過ぎです。あの辺のところを考えていくと、岩手はまだまだ、まだまだ財産を持っているのだなと思います。だから、その辺を今回ここにうまく盛り込めればいいのかと思ったことを言いたかったのです。

お願いは、検討部会としても多くの意見が出ていますので、先ほど進行の話もありましたけれども、余りにも重なっているところがあるので、検討部会同士の調整を一回この後させていただきたいというのが最後のお願いです。もう少しまとめたと思います。

○藤井克己会長 そうですね。私からも精査していただこうかなと思っていました。目次をご覧くださいても、キーワード的にも重なるところがありますし、両検討部会が別建てで提言するのは少し重層感というのですか、ダブリ感が激しいかなと思いますので、これから両検討部会の座長さんと県で突き合わせをしていただいて、次回のそれぞれの検討部会までに何かまとまるようなすり合わせが可能ならばと思っておりますが、その辺の進め方でよろしいでしょうか。

山田委員さん。

○山田佳奈委員 今、浅沼委員からご提案くださったこと、私も「ゆたかさ」検討部会座長として賛成しております。

この項目がそれぞれ先ほどおっしゃっていた目次というのが並列になっていますが、こ

れを有機的に表せないものだろうかなど考えております。これを何かストーリー立てというのでしょうか、具体的なイメージを持って、冒頭に中村部長さんがおっしゃっていたところが多分最終地点なのだと改めて考えましたけれども、その持続可能な岩手といったところ、社会というところに向かって、この状況を踏まえて、あるいはそれこそしなやかに、したたかに、どのように私たちの検討の内容が絡まっていくのかといったところが、これはアイデアというだけにとどまるのですけれども、有機的に見えてくるということが可能なのではないかなと今伺っていて思いました。

いずれにしても、ご提言いただきましたように、もう一回改めて検討させていただくということで、私もお願いしたいと思えます。

○藤井克己会長 よろしくお願ひします。よろしいでしょうか、委員の皆様。

では、両検討部会の代表様と県で年内詰めて、次の部会に向けて何かすり合わせ可能であれば、そういったものを整理してもらいたいと思えます。よろしくお願ひします。

6 その他

○藤井克己会長 それでは、本日の6、その他でございます。何かございますでしょうか。質問等がなければ、事務局にお返しいたします。

○司会（大平政策地域部副部長） 委員の皆様、ご審議ありがとうございました。今回の検討をもとに各検討部会でもう一回の審議が予定されてございますので、改めてよろしくお願ひいたします。日程につきましては、改めてご相談申し上げます。

なお、提言書につきましては、26年2月13日15時からこの会場で行う第67回の総合計画審議会でご提出をいただくこととしております。当日は知事が出席し、終了後は懇親会も予定してございますので、日程の確保につきましてよろしくお願ひいたします。2月13日15時からでございます。

7 閉会

○司会（大平政策地域部副部長） それでは、閉会に当たりまして、中村政策地域部長よりご挨拶を申し上げます。

○事務局（中村政策地域部長） 多岐にわたるご意見等を頂戴いたしまして、大変ありがとうございました。

いろいろなキーワードを各委員の皆さんからお話をいただいたとっております。誇りでありますとか、自信、つながり、文化、自然、再発見、交通基盤の整備等々、本日いただいたご意見等も踏まえながら両座長さんともご相談をさせていただいて、また次回のそれぞれの検討部会までに取りまとめをしたいと思えます。

また、各委員の皆様には、それぞれお考えになって何か新たなこういったものも入れたほうがいいのではないかとということがございましたら、事務局にどうぞお寄せをいただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

○司会（大平政策地域部副部長） 以上で本日の会議を終了いたします。